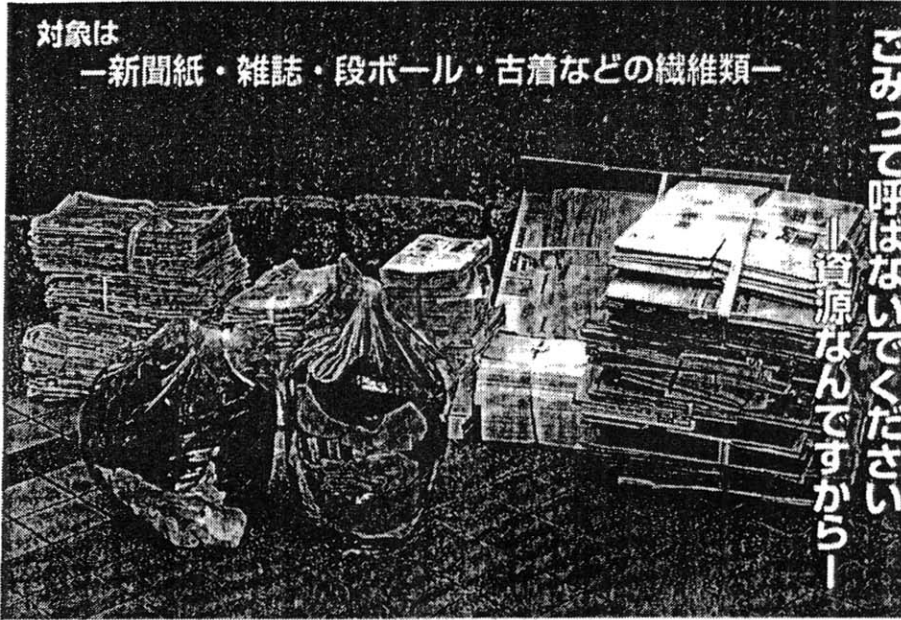


平成12年7月から

# 紙・繊維類の資源回収を始めます

対象は

—新聞紙・雑誌・段ボール・古着などの繊維類—



資源なんでもから—

市では、ごみの減量化と資源化を一層進めるため、平成4年10月から実施しているビン・缶の資源ごみ分別収集に加えて、平成12年7月から、紙・繊維類の資源回収を実施することになりました。

分別の方法や日程、資源ごみステーションに出していただく際に守っていただきたいことなど、詳しい内容については広報なばりと一緒にお配りしたチラシをご覧ください。みなさんのご協力をお願いします。

また、資源循環型社会に向け、名張市ごみゼロ・リサイクル推進委員会で、アクションプログラム（行動計画）を検討いただいております。今後はさらにいろいろな取り組みを推進していくこととしていきます。

問い合わせ先

市環境安全課

ごみゼロリサイクル推進室

☎63・2111

伊賀南部環境衛生組合

☎63・3741

◆6月5日は環境の日  
6月は環境月間です

1972年6月、スウェーデンのストックホルムで国連人間環境会議が開催されました。日本では、平成3年度から6月を「環境月間」、環境基本法（平成5年11月制定）では6月5日を「環境の日」としました。

名張市でも、この期間に市主催のクリーンハイキングが青蓮寺湖周辺で行なわれるほか、地域や企業、団体、グループなどで環境美化行動も多く開催されています。

資源ごみ集団回収の

助成も継続

平成4年から実施している資源ごみ集団回収への助成。1年度までに、この制度で集められた量は、紙類1万5223トン、古布6733トンに達しています。

市では、紙・繊維類の資源回収が始まる7月以降も、ごみ減量と資源の有効利用に大きな成果がある集団回収を支援していくために、助成を継続します。

集団回収への助成を受けることのできる団体は、子ども会、PTA、婦人会などの団体で、市への登録が必要です。詳しくは市環境安全課にお問い合わせください。

可燃ごみ…1人1日581グラム  
(市全体では年間1万8千トン)  
不燃ごみ…1人1日78グラム  
(市全体では年間2千4百トン)

大人も子どもも、まちぐるみで

便利な時代になった分だけごみが増えました。市PTA連合会の会長ということで、各PTAから相談を受けるのですが、学校内の奉仕作業で刈り取った草も、ごみとしてではなく堆肥に利用できればと思います。

商品の過剰包装についても、店も消費者もみんな考えないと解決しません。名古屋市では最近、ごみ問題の取り組みが、ずいぶん進んだようです。市ももっと強く住民に呼びかけ、まちぐるみでごみの問題を見直す時代代だと思います。



ピン・缶の分別を、大人も子どもも注意しあうなど、自分たちで努力すべきところも多いですね。  
百地良子さん (桔梗が丘1番町)

20年ほど前から無農薬栽培に興味を持ち、生ごみ堆肥を实践。何でも残しておきたい性格なんです。ひと昔前は、ごみは家庭で処理していましたが、今では、何でも人任せになっています。最近のごみで目立つのはプラスチック。ごみ問題は行政、事業者、市民が積極的に一歩前へ踏み出すことから始まると思います。

また、住宅地と農村部では、ごみを減らすための工夫も異なる点があるように感じています。

例えば、生ごみ堆肥を作る人、作った堆肥を使う人が信頼関係で結ばれば「ごみゼロ」に近づけるのではないのでしょうか。



奥喜美子さん (大屋戸)

人任せにしないで、一歩前に

◆紙・繊維類の回収日も

月1回

紙・繊維類の資源回収日は、すでに実施しています。ピン・缶の回収日とは別に、月一回です。

ご家庭で分別したり、ひもで結んだりしていただく必要がありますので、「めんどうだ」「たいへんだなあ」と、お思いになるかたも多いと思います。

しかし、みなさんに実践してもらうことができれば、ごみの減量と資源化をすすめるために大きな力になることは間違いありません。

◆分別すれば

すばらしい資源

市内の家庭から平成11年度中に出されたごみの量は、可燃ごみ1万8千トンで、その内、紙類が約35%、繊維類が約5%で合わせて7千トンを占めています。

これらのごみを焼却するための経費はもちろんのこと、活用できる資源を灰にしてしまっていたのではもったいないことです。

また、伊賀南部最終処分場で埋め立て処理をしている量は、毎年約1万2千トン。最終処分場を見学され、驚かれたかたも多いと思います。この中にもピン・缶類などリサイクルできるものが30%以上も含まれているのが実状です。

わたしたちの生活になじみが深い、ピン・缶類とともに、紙、繊維類は「混ぜればごみ、生かせば資源」の代表格といえるのです。

◆夢ではない「ごみ・ゼロ」

ごみを極力出さないことが一番大切。そして、出たごみは資源にどの発想で考えたら、そのほとんどは利用できる可能性があるのです。

市ではこれまで、ピン・缶類の分別収集をはじめ、資源ごみの集団回収への支援、生ごみ処理容器等の購入に係る設置補助、ペットボトルの拠点回収等に取り組んできました。

さらに、プラスチック類などの分別収集や生ごみの堆肥化等、市民、事業者、行政が協力して取り組めば「ごみゼロ」の目標も夢ではなくなるのではないのでしょうか。

◆もっとリサイクル製品を

現在では多くのリサイクル製品が流通しています。リサイクルの流れは、消費者が使ってこそ一つの輪が繋がります。

日ごろから、「使うならリサイクル製品」という心構えで生活をおくることは、資源循環型社会の基本です。

名張市ごみゼロ・リサイクル推進委員会



名張市ごみゼロ・リサイクル推進委員会は、ごみゼロ社会を目指すためのアクションプログラムの策定について検討するため、市民や事業所の代表者、行政関係者など34名で構成され、今年3月に設置されました。

委員会では、資源ごみの全品目完全収集や生ごみの堆肥化等についての年次目標、ごみの排出、収集、処理システムの、具体的な展開策をまとめ上げるために議論を深めています。

説明会の実施と啓発ビデオの貸し出し

紙・繊維の資源回収の開始にとまない、各地区で説明会を実施しています。

また、啓発ビデオの貸し出しを行なっていますので、ご活用ください。貸し出しを希望される場合は、環境安全課へご連絡ください。

